

山縣有朋關係文書

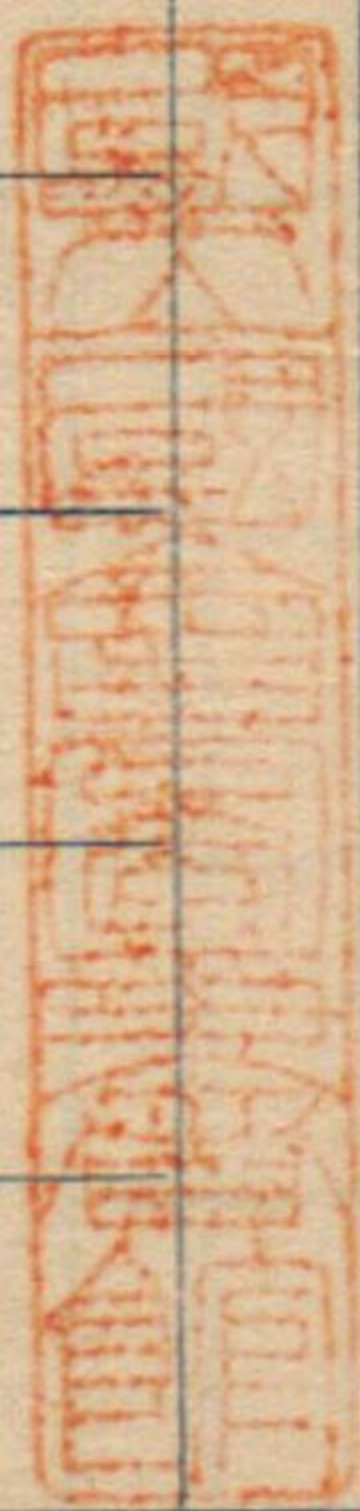
山縣元帥意見書集(其三)
德富蘇峰氏所藏

山縣有朋
書
10(三)

山縣之紳

意見書集 (其二)

鴻富蘇峠七
所為



22576

山縣有朋伝記編纂資料(写本) 10-2

目次

一 軍回ル處方子の意見書

(明治三十七年九月)

一 政戦両略概論

(明治三十八年三月)

一 對清政策に因方子書翰

(明治四十年一月)

一 第二對清政策

(明治四十二年四月)

曩に鄙見の概要を面陳したる由、更に

左に引記し、以て各位の披覽を請はんと

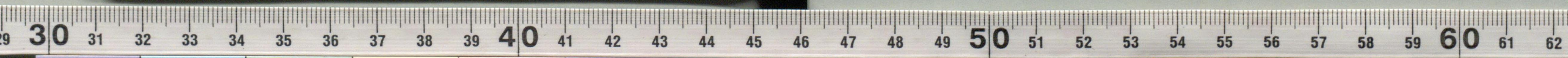
す

今回の戦争たるや、露國の滿洲占領、我

國利と相容れざるのみならず、其の韓國

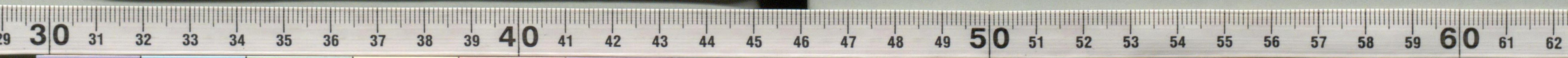
に對する行動、韓國の存立を害し、施て

我帝國の安全を危くするを以て、我自衛



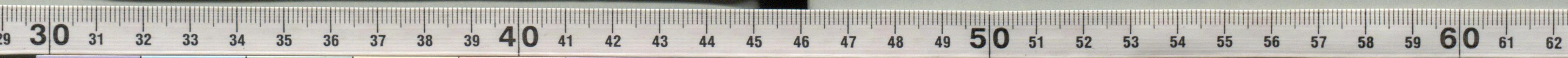
上の必要上止むを得ざるに出づ。是れ今
 更らに多言を要せざる所なり
 夫れ露國は宇内の大國にして。人口及び
 兵力我より数倍す。而して我々之と戦ふ
 由。誠に振古未曾有の一大禍危なり。幸
 にして開戦以來我々は海陸俱に連りに勝ち
 海上の權は已に殆んと我々に歸し。遼
 陽既に陥り旅順の命又方に旦夕に迫り

然りと雖とも是れ唯の戦争の第一期の
 其の第二期第三期に至れば。勝敗の
 數未だ逆の睹る能はざるものありとせば
 勝同一致猶益を達して大に努力せざる
 か。さるなり
 然るに回戦の趨向を視るに。近來或は勝
 に狙ふ。大敵を輕し。或は戦に倦みて平
 和を冀ふもの性々あり。此の趨向に



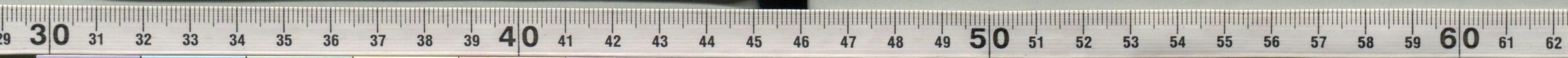
し	漸	く	長	せ	か	其	の	禍	の	及	ぶ	所	悔	に
測	る	一	か	さ	る	と	あ	ら	く	と	す	故	に	之
戒	飭	警	醒	す	る	こ	と	實	に	政	府	目	下	の
急	務	可	し	と	す									
説	を	あ	す	も	の	あ	り	曰	く	連	陽	已	に	落
旅	順	亦	陷	ら	く	か	露	回	遂	に	其	の	爲	す
さ	さ	る	と	悟	り	自	ら	和	を	乞	ふ	に	至	ら
た	水	露	回	の	強	大	を	以	て	到	回	に	雄	視

也	年	あ	り	其	に	今	我	と	戦	ひ	敗	ぬ	を	以	て
局	を	錯	ふ	か	如	き	こ	と	あ	ら	く	か	外	列	國
對	し	て	回	民	を	損	す	る	の	み	た	ら	す	内	回
に	對	し	て	威	信	を	失	ひ	内	治	外	交	俱	に	困
と	極	む	る	に	至	ら	く	乃	ち	今	回	の	戦	や	露
に	あ	り	て	も	亦	實	に	回	家	隆	替	の	繫	る	所
は	さ	る	一	か	ら	す	隨	て	一	二	の	蹶	跌	を	以
直	ち	に	和	を	求	む	か	如	き	は	新	し	て	あ	り



可らす。況や曩に主幹論を唱えて廟議を
 以て決せしめたる太公以下貴族及び軍人
 の今猶依然として政府部内口勢力を有す
 るに於てもや。乃ち列回中或は再回の尙
 且にして和局に斡旋せしむるのあり
 とも。露回の之に肯せしこと今猶昨
 の如くならん。何ぞ自ら進て和を乞ふか
 如きことあるべけんや

説をたすもの又曰く。露回にはバルカン
 題に由て掣肘せらるるの事あり。保
 芳蘭集の如き腹心の疾あり。着よ先
 日芳蘭總督の漢を弱し。今又必相先手
 に斃せらるるありや。革命の氣運已に
 熟せり。彼に晋を久しく執持するを得
 人なり。彼に腹心の疾ありや。然
 りとも彼に常に之に備へて敢て急るこ



とありす。且革命の徒や政府に抗するに
 足らず。一は實力及び武器を有せし。後令一
 二の乱を起すことあり。之れを遂くす
 に至り。すして直に撲滅せらる。之れのみ。我
 豈に恃む。一からす。他の内証を恃む。一は
 人々。バルカンの問題に至れば。關係列國干
 渉を執り。相見たり。如きこと。近き將來に於て
 新し。之れは。是れ。又亦。今日。我の恃

む。へ。之。所。に。あ。ら。さ。る。可。り。要。す。る。に。今日
 の。情。勢。に。考。え。ら。る。に。露。國。の。我。に。和。を。乞。ふ
 か。如。き。こと。新。し。て。あり。得。可。ら。す。又。擬。令
 和。議。の。兩。國。の。間。に。起。る。こと。あり。と。す。る。も
 。。兩。國。の。控。唱。す。る。所。に。す。大。概。に。懸。隔。あり。
 べ。く。隨。て。妥。協。を。又。る。能。は。す。し。て。戦。争。の
 一。に。彌。ら。る。こと。を。疑。ふ。可。ら。す
 而。し。て。今。や。我。れ。既。に。常。備。は。勿。論。、。豫。備。後

備悉く之れを申し。国内の警備は国民軍
 と徴して之れに任せしむるに至りし。
 而して敵は至大の兵力を西伯利有し。之
 れを西東に増派せしむるが爲め西伯利
 送工程の増加に勉む。之れを既に徴す
 るに以て鉄道は月々八列車を動し。毎
 一師團半を輸送し來りし。茲に貝加尔
 湖面の鉄道開通と共に大に其輸送工程を

増加し。今や十六列車を動し得るに至り
 するに以て。今後は毎月一軍團半の兵力を
 送り來るものゝ算せしむるに可し。以て
 勢に抗し善く我目的を達せしむるに我亦
 之れに應ずるの計を取らるるに可し。
 不日其の方案を見具して審議せしむるに
 可し。

戦争の么一きに彌るに隨て軍費を要する

もの益が多きは固より言を待たず。今や
 國家の經濟未だ甚達せず。國家の財政未
 だ豊裕ならず。さるに當て未曾有の困難に遭
 遇す。國家の負担を以て重且大なるし。此
 誠にも止むを得ざるや。而して軍費を
 支弁するの道。更りに外債を募集するの
 外にあらざる。是れ財政當局者の深く講究
 せざる可からざる所とす。

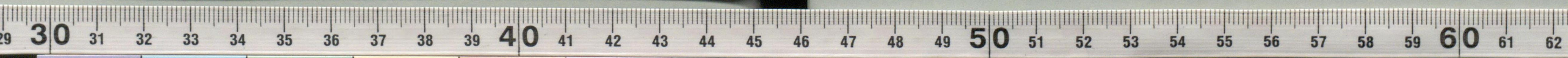
戦争の影響や其の及ぶ所独り對平國の間
 に止まらず。故に利害の關係を存する者
 三者。時として容喙する。ことあるは殆ど
 と免る能はず。今圓の競争に於て列國
 の多く我れに左情を寄する所以のもの。
 主として露國の專横を憎み、我れの正義
 を多とす。るに因ると雖も。今後戦争の
 経過如何に依り露國の否運を憤りみ、我



將來の隆興を怡はすして利害の打算上或
 は我に不利たる干渉を諷するもの出づ
 ば其を保せず。乃ち外交當局者常に深く
 列向の意向及び此行動に注意し。以て障
 碍の起るに處するの道を講せざる可らず。
 顧ふに政府當局者。職務の任を盡しし。
 此の懈怠ある一とや疑を容れずと雖も
 も。本年未曾有の困難に際会し、事毎に

國家の存亡に繋るを以て。婆心を投歴し
 乙故に當局の注意を喚起す。唯この國家を
 思ふの哀情黙止するに思ひたり出づ
 のみ

明治三十七年九月
 山縣有朋



桂内閣物理大臣閣下

曾根大臣閣下

小村外務大臣閣下

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is written in a cursive style and is difficult to decipher.

山縣公史實調査會用紙
明治三十八年三月
山縣元帥の
政戦兩略概論

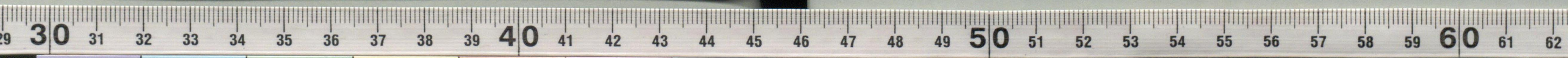
明治三十八年三月

山縣元帥の

政戦兩略概論

Blank grid area for writing on the right page.

無	悚	御	ノ	致	覽	尔
之	察	一	覺	度	候	来
候	之	讀	悟	候	篤	御
ハ	為	ノ	レ	大	卜	清
曾	持	上	候	体	御	壯
稱	差	細	今	以	一	欣
山	出	縷	日	方	讀	然
村	申	御	参	針	猶	扱
兩	候	談	堂	レ	高	鄙
相	猶	合	可	テ	見	見
一	御	可	得	来	之	別
御	一	致	拜	計	有	書
迴	讀	方	晤	畫	之	レ
レ	別	御	卜	ヲ	候	相
可	段	都	存	立	ハ	認
被	御	合	候	ツ	レ	供
下	異	可	レ	ル	料	清
	凡	然	共		義	



候
草々坂首

三月二十七日

有朋

桂首相閣下

政戰再略概論

開戦以來茲に十有四月。海に陸に戦ふ

として捷たざるは極く。坂日奉天附近の

会戦に於て更に至大なる打撃を敵に与へ

。長駆して之れを開原以北に撃退し得た

。は。宛に一大決事にして。君国の為の

に慶賀措く能はざる所なり。顧ふに昨年

の二月。開戦の廟議を決定せしむるに當



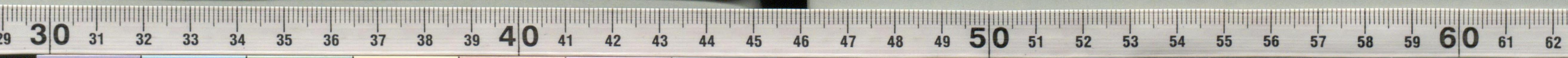
時	に	施	て	は	。	誰	か	能	く	其	の	斯	の	如	く	た	る
可	也	と	豫	想	し	た	る	も	の	切	ら	ん	や	。	是	れ	実
に	由	る	と	雖	も	。	然	ら	も	亦	た	。	祖	宗	列		
に		我	皇	の	威	德	と	我	陸	海	軍	將	卒	の	忠	勇	と
聖	の	冥	護	深	厚	た	る	に	由	ら	す	ん	は	あ	ら	す	。
吾	々	局	に	當	る	者	は	決	し	て	戦	捷	に	倨	る	こ	と
た	く	。	け	隆	益	と	戒	慎	を	加	え	て	。	終	局	の	成
功	を	期	せ	さ	る	可	ら	ず	る	こ	と	。	勿	論	たり	し	

す																	
開	戦	の	當	初	に	施	て	は	。	役	我	の	勝	敗	斯	く	ま
で	に	顕	著	あ	る	べ	し	と	は	。	夢	想	た	も	あ	る	能
は	さ	り	し	を	以	て	。	吾	々	は	勿	論	。	戦	争	の	多
年	に	健	捷	す	べ	き	こ	と	を	覺	悟	し	たり	。	然	る	
に	遼	陽	の	戦	捷	。	旅	順	の	陥	落	は	大	に	敵	軍	の
士	氣	を	沮	喪	せ	し	め	た	る	の	状	あり	。	加	あ	る	
に	敵	國	の	内	情	け	知	る	紛	擾	を	極	ま	る	に	似	れ



るを以て。若し壽天の合戦に
 我軍の捷利に歸するに於ては、
 或は形勢の
 變化を生じ意外に平和回復の
 機運を早
 むることとす。或は
 予と想像せらるる
 りと雖も。壽天の捷利の役も
 如く歎
 赫に。強人と人力以外の成功
 ありと
 思はるるものありしにも拘
 らず。敵國の
 政府は依然として其意志を
 故あることとす。

く。更に數十方の軍隊を派
 遣して、以て
 戦争を継続するに決
 したるが如し。是
 一見無謀の所為ありに似
 たり。雖も
 顧みれば敵回は由來
 歐洲に於て最大の
 武國
 と云はるるものあり。其の
 力弱視し
 たるが如
 回と連戦連敗して、
 終に和を求むるが如
 其の自負心の之を許さ
 るは固よ
 り之を案ずるに難
 かからず。況んや満洲



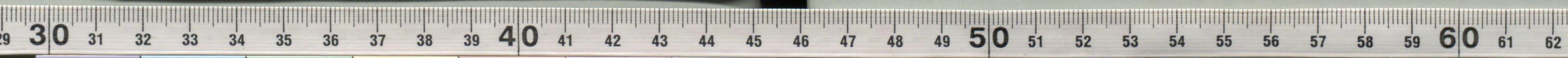
に激進の軍隊は已に非常の損害を受け
 るにせよ。本國には尙ほ十分強大な
 十有餘軍團の現存せしに於ては、其の
 能くもて戦争を継続せしむるもの寧ろ
 怪しむに足らんや。乃ち我も亦強らく
 初の覚悟を固持し。是れより進んて
 期々の作戦計劃を以てし、但し是れ
 より進んで第五期の作戦計劃に
 入り

きつは、豫定の諸君の熟考を求め
 るに、是れもあり。何とせば大作戦の計
 劃は常に國家の政策と相一致せし可
 ざりしものにして、萬一兩者の間
 格の存否を以てし、縦令戰場に於
 て捷利を得るも結局國家の利益を
 以て是らとすは、
 去る開原より、哈市賓に至る迄、道程百餘里



其間別に陸軍の擧げ可きものあるに
 ず。又物資の集積を計るべき處あるに
 ず。乃ち吾天より敗北したる敵は哈爾濱
 を根據地として。茲に其の人員林料の損
 害を回復し。更らに本國よりの増援兵を
 待ちて再挙を計ることにして。然らば則
 ち我は現在の右領地域に據守し。敵の南

下を待ちて軍ぬて之を撃破するの手段
 を講ずるか。或は進んで哈爾濱を衝き。
 敵を滿洲に放けし其の最後の根據地より
 撃つ壞す。のみなす。又浦塩潮斯徳を屠り
 て敵回をして永く太平洋上に出一つこと
 を得たりしむるの方策を採る乎。二者其
 の一は出でたり。かす。然るに攻勢を
 轉して全く守勢となし。望して敵軍の巻



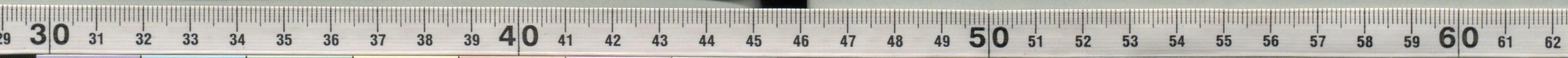
土重來を待つは其の事比較的容易なり
 似て。實は甚だ困難あるものあり。何と
 せんば敵は其の間にて來りも、一層強
 大なる兵力を滿洲に集合し。大岸して南
 下を謀むることを得べく。我々は無爲の
 滞陣にして軍の士卒漸く倦怠
 の氣を生ずるの虞あるに似たり。
 即して之を決して平和を克復するの道に

取ざるなり。然らば則ち進んで攻勢を取
 る外にほども。人烟稀少にして物資乏
 乏の長途を前進し。其間に重ねて集合せる
 敵の大軍を撃破するは實に甚だ難の事業に
 して。之れを爲すには一般の準備
 を爲さざる可らず。即して其の準備を整
 備するにばかりなくとも數回月の時日を要す
 りや言を俟たざるなり。且つ之れ哈爾濱



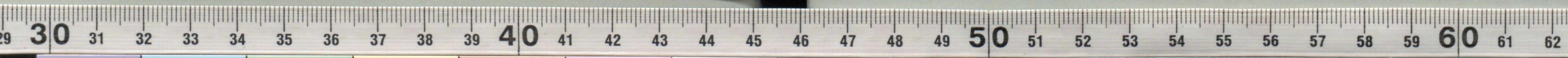
と奪ひ。浦潮斯徳と陷るも未だ以て敵
 に致命傷を与へたりとばかり可からず。徒
 って執拗たる敵國は未だ休かぬ和を求む
 り心算らすべし。否や今日未だの情勢
 によりて之れを棄たすに彼れは莫斯哥。
 從得堡より大に侵入せらるるに於て決
 して自ら和を乞ふか如きことなからず
 たり、去れは愈々進んて哈爾濱を攻撃す

敵國の首府に大に侵入すの決心を以て
 之れは。須らく非常の忍耐力を發揮し
 回純の情愈々紛乱を長し、上下の乖離甚
 極に達して到底外難を事とするに堪へざ
 りに至らば。彼れも窮して遂に和を乞ふ
 の止むを得ざるに至り可しと雖も、斯
 の如きは固より彼れ我れの得る時ありと



りに氷さす。従つて本國の競争は尙数年
 に継続するものと断定せざる可らざるあ
 り。前途悠遠なりと云はざるべし。或
 望して守勢を取らば。進んで攻勢を取ら
 ば。孰かにして。前途悠遠にして容易に
 平和を回復し得るの望みなく。而して我
 り。第一敵は其の本國に尙ほ強大なる兵

力を有するに及し。我々は已に有る人限
 りの兵力を用ひ盡し居るなり。第二敵は
 未だ將校に缺乏を告げざるに及し。我々
 は開戦以來已に多数の將校を缺損し。今
 後容易に之を補充する能はざらん。或
 かの二吳は守勢を取らば。現在の右領地
 塙とす。或は守勢を取らば。連加に之を
 の争ひを取らざる可らざる。況んや進ん



功場を取らざる可からざるに於てをや。而して更らば工改定せざる可からざるものあり。曰く奉天より哈爾濱に至る百餘里の間に複線の鉄道を布設し、以て輻重の充實を計ること。曰く兵站線の延長せざるに従ひ其の守備兵も亦尙之を増加せざる可からざるのみならず、爲し得る限り新設の兵をも急造せざる可からざることは是れ

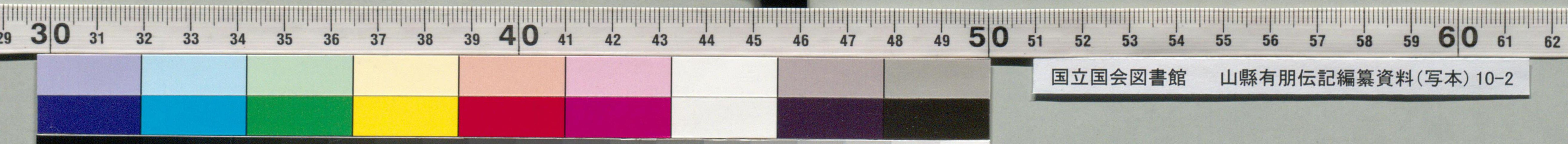
り。然り而して之れに随伴する所の軍器軍械の補充と増給とは何れの場合に於ても速かに之れを断行せざる可からざるなり。以上の諸兵を実行するが爲めに莫大の費用を投せざる可からざること無論にして。國民の負担は爲めに非常に重さを加わ可しと雖も、是れは實に止むを得ざるの勢にして、而して諸君の最も其の智慮



と運らす一に所なりとす。之れを要する
 此第三期の作戦は最も重大にして。万一
 遠算あるに乎。赫灼たる従来の戦捷を
 て半は水泡に帰せしむるの虞なるに非
 ず。豈に慎みたる可けんや。但し作戦の
 計画に一つは吾等自ら信ずる所あり、
 望む所は諸君が能く国家の大政策を確立
 し。今後数年間の戦争を継続し。事に戦

闘に後ふ者を以て後顧の患たからしむる
 にあるなり。茲に大勢を略陳して諸君の
 熟考を求むるもの。即ち之れが處のなり
 諸君幸心に之れを諒せよ

明治三十八年三月二十三日



元帥
山縣有朋

桂
内閣総理大臣殿

曾
福大蔵大臣殿

小
村外務大臣殿

拜啓
亦来御清壯欣候
議合開合の折振一

層御多諒不堪想察矣
奴等冬採顔の節概

略申述小通リ對清政策は至急に而決定相

成小方可然様愚考致し小
就印は別紙鄙

見進呈致し小問御聞暇の際御一読被下度

小
多年外交の事は精熟せり小
問答下

以
向小乙鄙見を呈す
小願
先躰と存し

小へ共。是亦憂國の至情不得止に始つる
しのと御堆案被下度小。文中清國と交際
の変遷を叙する處餘りに冗長に過小様被
存小一共。立論の順序勢ひ不得止に到
小。中高怒是祈。實の採録の上御談亦相
誅度存小一共。御多忙中態斗羸控以書中
得貴意小。草々頓首

一月二十三日
西園寺公望閣下

有 附

對清政策の大方針を確立するの急務たる
ことにつきては曾て粗々面陳したること
あり。尔来更に沈思熟考するもの多し。
尤に其概要を録して瀏覽に供す。廟議の
決定に際し若考の一助と爲ることあらは
幸甚の至りたり

二十七八年の役に於て我が武力の世界に

山縣有朋伝記編纂資料(写本) 10-2

山縣有朋伝記編纂資料(写本) 10-2



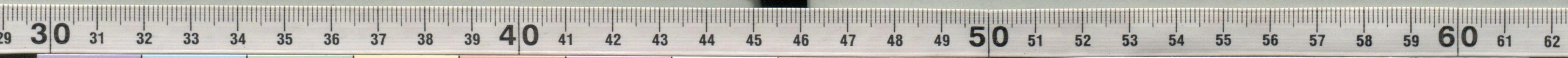
系認せうと共、清國の無力たる
 こと、亦世界に暴露せうとす。従来清
 國の内状を評かにせ、其の土壤の廣大
 なる、兵人の衆多あるを、足て濫りに手
 を著け難しと爲し居たり。瓊海の列強は、
 茲に至りて忽ち清國の与みし場きを看破
 し、各の勢力範囲を劃して、實際清國を分
 割取せんとするの気概を示すに至り

是れ、實に我が政府の豫期せざりし所
 にて、我が政府は寧ろ清國との交誼を敦厚
 にして、以て東洋に於ける事端の発生を豫防
 するの必要あるを感ず。然れども戦
 敗者か戦勝者に向つて復仇の念を抱くは
 古今各國の实例に徴して、執り免かざる可
 らざる所にして、二十八年より九年に亘
 りては、清國政府の有力者も亦復仇の念頗



了熾くありしに似たり。二十九年露國皇
 帝勳封式の際清國の特派大使より露都
 に赴きたる李鴻章が。今地に於て所謂
 露清密約を締結し且つ東清鐵道の敷設に
 左意したるか如き。固より露國外相曰
 バノフ曰藏相曰ウ井曰テ曰の勧誘巧妙
 りしに由るべしと雖も。而かも亦李自
 から露國の力を藉りて我國に復仇せんと

するの意に出てたることは。當時に於け
 る李鴻章と清國政府との往復電報に見て
 明白なりとす。其他張之洞の如きも汲々
 として養兵練武を是小事とし、忽然と
 て多年の積りより覺醒したるの状ありた
 り
 然るに清國に對する歐洲列強の壓迫は。
 中間に於て驟々として其の速攻を增長し



。或は独逸の膠州湾占領と可なり。或は露
 國の關東洲租借と可なり。或は又英國の威
 海衛占領と可なり。而して鉄道の敷設。鉅山
 の開掘等に關する列強の要求は雜然とし
 て紛起したり。茲に於て乎清國の上下亦
 大に警醒する所あり。坐して列強飽くな
 そゝの求めに左するは。寧ろ各種公文に
 日本に依頼して以て之と共に東洋の和平

を國子に如かさるを思ふに至る如し
 。茲に至りて清國の上下は靡然として帝
 國に帰向するの風を生し。従前専ら独逸
 より備聘し居りたる陸軍の教官も日本よ
 り之を備聘するところなり。警察又は學
 校の教官。技師等にして我が邦人の清國
 に招聘せざるもの。漸次に其数を増加



年の積怨を捨て、我々同盟の密約を訂
 せしことを希望するの意固さへも是れ
 事あり
 尋て三十三年の北清事件は清國を以て益
 我々に傾心せしむるの原由となりし
 是より先ず清國の戦敗と之に引續きて
 の列強の壓迫とは。清國朝野の志士もて
 変法自強の必要を感覺せしめ、政體革

新の議論さへも唱道せらるるに多ししが
 康有爲。梁啓超の輩の如き急進改革派
 は、未だ事を表すに及ばずして、中央
 政府の善のに撃破せらるるに雖も、
 所謂白人なるもの、跋扈を憤慨する所
 の志士は、却て政府樞要の地位に在るもの
 と、互に其の氣脈を通し、遂に所謂團
 匪の乱を生じ出するに至りし、は亂を鎮壓



才より當りて。列強の主力と仰りたるも
 のは即ち我が軍隊にして、我が軍隊の精
 練たることか。列強に承認せられたるは
 實に此時に在り。他日の日英同盟も此時
 に於て其の萌芽を養はしたるに似たり。然
 り而して北京陥落後に於ける我軍隊の紀
 律と我が政府の好意とは、清國の上下を
 益々信頼の念を厚くせしめ、我が邦

人の文武の教官として、清國に招聘せら
 るしもの。年来著しく其の数を増加した
 りの計なり。我が國に來遊する所の留
 學生は、概に幾年を以て計するに及ばり
 。而して我が政府の清國に對するや、常
 に好意と友情とを以てし、彼の軍隊改良
 を助くるが爲めに、我が陸軍士官學校に
 於て彼の生徒を養成することを志す。



諾しつゝ

二十八年に於て我小に迫りて遼東半島を

清國に還附せしめたる露國は、旅順、大

連を租借して軍港と要港とを設定し、之

を本國と聯絡するの東清鐵道を敷設した

るうたはす、所謂の團匪の乱に際して

は之小を口実として、滿州一帯の地を占

領し進て威を朝鮮に及ぼし、常に我が利

権の伸張を制壓するのみにたりす。勤王も

すべば則ち我が獨立をも危害せんとす

の気物あり、而して清國の衰弱なる。自

かゝ露國を以て滿洲より撤退せしむるこ

と能はざるなり。茲に於て乎我小は露國

に要求するに、滿洲より撤兵するのとを

以てし、交渉に交渉を重ねたる末、通

自衛の必要上已むを得ず、國家を賭して



戦争を布告するに至り、而して意外の大捷利を得たり。此間清國は我の御告に從ふて局外中立を守り、此の中立に於て我の作戦に便宜を与へたること勦やかかりとせず。然るに戦捷の結果我は露國を以て北滿洲を撤退せしめたるも、自ら代りて南滿洲の主とたりたり。如か如か勢あり。露國より關東洲の租借を譲り受

け、長春以南の鉄道を譲り受け強固たる立脚地を滿洲に作りたるを以て、清國は又頗る猜疑の念を生じ、勤王も亦は則ち我々の施設を妨害せんとするの氣勢を示すに至り。歐洲列強の壓迫に對する清國の反動は近日に至りて益々其氣勢を增長し、所謂利権回收、主權維持の議論以上下を迴し



て知らるる熾盛ありの状あり。而して我國の
 露國と戦ふて大捷を獲たることは、實に
 清國の人心を覚醒して白人に對して敢て
 下らざるの感念を生ぜしむ。從て益々以
 利権回収熱を煽動したるに似たり。蓋し
 日本が歐洲の強國に戦ふて勝利を得たる
 は、決して有色人の白色人より強きこと
 を証明するものなり。寧ろ歐洲文明の

勢力偉大にして善く之を學ばし得たる存
 在が、文明の潮流に後れたる白色人に
 打勝ち得ることとを証明するものにして外
 なるものなし。思慮なく知識なき有色人の
 多敷は未だ之をも悟らずに及ばず。唯
 以爲らく日本人も有色人なり、我等も有
 色人なり。日本人が世界最強國たる白人
 人戦ふて。空前の大捷利を獲たりと



是れは。我事も亦けすし。も白色の跋扈
 跳梁を黙忍せざる可からざるの理なり
 此思想は今や亜細亞。亞弗利加にも
 流行す。而して此思想を抱く
 所の有色人は大抵我國を崇拜なり
 と仰し。我水も仰ぎて盟主とせんとす
 の意ありに似たるも。独り清國は然らず
 其の外國の勢力を排斥するに急なる。

我か同に對して。毫も寛容の状あること
 あり。便ち滿洲に於ける我か經營に對し
 ては。到る處に反對と妨害とを試み。後
 我兩國の協議を必要とする事業は百事滞
 滯して。將に其の弊に勝へざるあり
 も。即ち今日の突況なるに似たり
 蓋し最近一兩年に於ける清國の外交政策
 は所謂對外硬の一兵張りにして。苟く



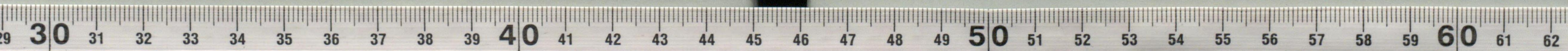
も理の有る所は之小を争ふて止まざるは
 勿論。便ち理の無き所に至りても亦
 に我意を主張して敢て屈せざるの風あり
 。而して従来清國に對して常に強壓^{迫的}態
 度を取るに躊躇せざりし所の列強は。今
 や却て清國に憚るの状あり。苟くも清國
 の挑外的感情を挑発すべし言行は勉め
 之小を避くるもの似たり。若し於て乎

清國の對外硬政策は多少其切を奏し。關
 税問題の如き。南昌教案の如き。将に西
 藏問題の如き其の結果は殆ど對外硬論者
 をして益々氣煽を吐かしむるに足るもの
 あり。所謂る利権の回收と主権の維持と
 は今後益々其勢力を増長せざるに至ら
 ざらん疑を容れざる。便ち南滿洲
 に地歩を台取したる我が邦が。事毎に其



の異議に衝突し、少くもさるの不便を要し
んとするは、皇に誓ひの止む可からざる
所なりと雖も、我邦が数万人の命を亡
ひ、十数億の金錢を消して勝ち得たる所
の満洲に於ける利権は、固より清國の異
論の爲のみに之れを退縮す可からず、況
んや之れを抛棄するに於てをや。今日の
勢を以て之れを推せば、今後十有餘年以し

て租借期限の満了するに至らば、清國は
殆らく我れに向つて關東州租借地の返還
を要求すべしと雖も、其の間、於て世
界の形勢と東洋の局面とに至大なる変化
の生ぜざる限り、我れは決して斯かる要
求に応ずる能はず也。勿論にして、我れ
は一月も油断することなく、満洲に於け
る経営を進行し、利権伸張の爲の地勢



山縣有朋伝記編纂資料(写本) 10-2

を固むるの計画を怠る可からざるなり
事情右の如く、わが国は我邦と清國とは満洲
に於て、遂に調和すべからざる利害の衝
突を惹起し、或は干戈に訴へて其の解決
を期する可からざるに至るやも、未だ知
る可からざるものありと雖も、而かも
是れ万已むを得ざるの場合に於て始りて
之れを断ずべしのみ。我邦の目的とする

所は成るべく平和の手段に依りて國家の
富強を増進するに在るが故に、其の清國に
對するや、主として実情を敦厚にするこ
とを計り、無用の誤解を惹起すの如きはこ
とに勉め、之れを避けざる可からざるな
り。之れを要するに、今日の如く、百事滯
滞し、わが國の狀態は決して之れを
大いに是に照らす可からざるなり

山縣有朋伝記編纂資料(写本) 10-2



以上陳述したる所以に、
現下の對清政策に於て最も主要たる
點は即ち清國と協議熟議して滿洲の経営
を進行し、清國を以て之の就きて異議
を挟み妨害を行はしめざるに在り、雖も
即ち一面露國と互に意見と交換
し、兩國商議協定の上一清國は諒合して之
を遂行するは、今日の形勢に於て最も

緊要たる事件に於て、
露國とは滿洲問題の爲めに大戦争を行
はし、雖も平和條約の結果として
我々の滿洲に據り、
彼は北滿洲に據り、
今や共に滿洲の経営に從事
すべきに、
及んば我々の割讓を受け
し滿洲鉄道の
以ての東清鉄道の聯絡し、
陸路極東に通ずるの一大交通機



閣を形成するに於て也。若し露國に
て急に再び南下を企つることある
に、急に北進を策することあるに
は、双方の間甚しく利害の衝突を
虞わねばならず、而して互に相恨
要するの事件は則ち決して期せず
なり。便ち彼我共に独り清國の敵
心を得るに汲むこと。隱約の間
に相競争し、

相挑拮するより、寧ろ共に胸襟を
て、滿洲の経営進行を畫策する
るなり。但し露國の復仇心は果
て協議談合を容れずや。今日露
國に於て復仇心の熾るは、思ふ
に二十七八年後の清國の比に似
て、其の實力は固より侮る可
きあり。是れ我々の艱捷後に於て
更らるる



兵備の充實を講せざる可からざる所以あり
 りと雖も、而かも彼との交情を親密に
 して其の復仇心を緩和し、かくとも今後
 十数年間の平和を維持する事は、我々の
 利益に於て最も必要なる務にして、内治の素
 乱に苦しみ居る露國の政治家は、必ずし
 も、我々の好意を排斥せざる可からざる。蓋
 し日英全盟の明文と精神とに背反せざる

限りの範囲に於て露國と相控拂う事は、獨
 り我々が滿洲經營を進行するの捷徑たるの
 みにならず、又露國の列強を以て團結して
 東洋に迫らし、その好方便にして、東
 洋の平和を維持するの上には、實に
 考慮を運ぶ可き所なるを信ず。今や我
 か國は未曾有の大戦争に、未曾有の大捷
 利を獲て、大に世界の尊敬を博すに至



リたるの觀ありと雖とも。叶と共は又其
 の猜疑と忌憚とを招致するに至りたるこ
 とは。決して之を忘る可からず。独。
 俾。米の如き商賣上の利害の衝突よりし
 て。何時我が邦を敵視するに至りぬ。測る
 可からざるものあり。加ふるに戦捷の餘
 威は歲月と共に消磨せざるを係せり。而
 して字句の情勢は何時大變化を生ずるや

小知る可からず。況んや未曾有の大捷利
 小已に一清國を以て事毎に我小に聽かし
 む。心に足らざるは。眼前の事實あり。以
 てを也。連に外交政策の大方針を決定し
 一切の掃蕩其の勢調を轄一にして。以て
 海外に於ける利権の伸張を策するは。實に
 緊急の要務に於たり也



明治四十年一月二十五日

有朋

西園寺首相閣下

山縣公使實訓查會用紙

山縣公使實訓查會用紙

關東半島を以て永久我が帝國の領土に歸
 し、確乎不拔の基礎を建つべしは固より
 論ずべきのみ。若し然らずして租借期限の
 満了を待ち之れを情因に還附せしむる
 の意あるか如くんば、寧ろ期限に先立ち
 て速に之れを抛棄するの優れとすべし
 如き事ありしや。抑、半島の地たるや、殆



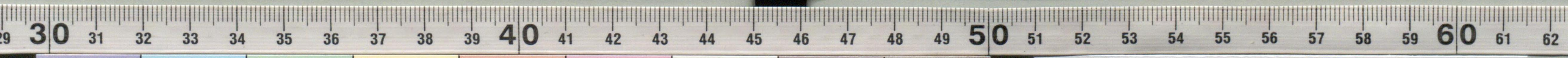
二十億の買財と二十餘万の死傷とを
 以て獲得したる所の戦利品とも謂ふ可
 しのなりて、從合の期限の来たるに
 も、直ちに之を還附するか如きは、
 陸に於て行はる可き事なり。泛く
 半島の抛棄は我が保護回たる韓國の
 民心に影響すること極めて恐る可
 き者あり。是の廟議の曩に半島不
 能をもや。

一決せし所以にして、當局の諸君
 来々大方針によりて、所謂構海の
 徑事し居るは、余の深く欣謝し堪
 さふ所なり。然しとも租借は即ち租
 くは合併と同様に進さるか故に、
 限の満了するに至るは、清國は我
 附を要求するは、蓋し當然の事なり
 可く



我々も亦之れを還附するを欲せざるは
 と。期限延長の談判を試みることを
 ありし。直ちに合併を宣言するが如
 きは。理の當りに為すべし。所
 若し之れを為さん。せば餘り
 置にして。列國は恐らく我々の行爲を承認
 せざる可し。故に關東半島の租借期限を
 延長し。之れを以て實際帝國の領土と
 合

極のものたるし。此は半島は勿論南
 滿洲一体に亘りて大々的經營を進行し
 到底滿洲より撤退するること能はざるの
 勢を成就して。以て兵略上以外に於ても
 亦清國に對して租借期限の延長を強求す
 り。足るの基礎を作成し。万
 一清國が強
 て期限の延長を承諾せざるに於ては、別
 ち造管物。引渡し及び利権の抛擲に
 及ぶ



我々が鞏固したる意志を主張し。且つ満洲回
 防上に就ては数十万の兵員を配置すべし
 の必要ありと説くのみならず、徳水と一
 て畏怯逡巡せしむるに足るべし巨款の年
 償を要求し得るの根拠を確立せし可か
 らざるなり。然るに帝國は戰後外
 情に纏綿せらる。且つ日露及以日佛の恨
 高き為才等、種々の事故の爲めにも時日

を経過するの已むを得ざるを以て。鋭意
 満洲の経営とのみ遂行するにこころを得ずし
 て。前办閣の交違を見るに至りしなり。
 諸君が其後と受けつて苦心憔悴たるは、余
 の十分に諒察する所なり。雖もも、今や
 租借期限は制す所僅に十又四年に過ぎず
 。余は諸君が益す努力奮勵せしこととを切
 望するに躊躇するを得ずなり。



滿洲の経営はる。其事頗る多端なりと雖

いも、中心地を最も重んじ大なるものを

争くれば。則ち持てたの五項に屈すべし

に似たり。一に曰く安奉鉄道を改築す

事。二に曰く清國に謀りて速かに吉長鉄

道と敷設せしめ、林は韓国清津より閩島

を經由して吉林に達するの鉄道を敷設す

事。三に曰く旅順口の一部を開放す

商港と為す事。四に曰く滿洲に於ける諸

鉱山を採掘す事。五に曰く多数の邦人

を滿洲に移植し且つ金融機關を設置す

事なり

第一。安奉鉄道は韓国釜山と滿洲奉天と

を連絡するものにして、我が國と滿洲と

の交通を迅速に大なるに於て、最も利便な

る線路たるのみならず、他日重なる兵を

大陸に用ゐさる可ありさる。お如き事あり
に際しては、我が輸送上第一に用なるは
。即ち此線路にて。其の改築は一日も
思ひせに可からざる者あり。然るに今
や三十一年十二月の日清協定によりて確
定せらる。該鉄道の改良工事完成期
限の已に経過したるに拘らず。其の改良
工事の完成せざるは勿論。未だ著手さへ

もせらる。その状をみるは。余の諸君と共に
に遺憾に堪へざる所なり。
第二。長春より吉林に達する鉄道は。南
滿鉄道の爲めに貨物を供給するに重要なる
ののみならず。北滿洲に於ける作戦の爲
めにも欽一可からざる者なり。我が回
強力にて之を敷設するの格利を得る能
はざりしは。遺憾の至りなり。雖も

山縣公使實調査會用紙

山縣公使實調査會用紙



今日ハ復レズルと言ふを須ム。宜シク
清國ニ謀リテ速カニ之ニ敷設完成スル
の午飯ニ講スベシナリ。而シテ韓国清國
ニ起リ間島を經由シテ吉林ニ達スルの鉄
道ハ、経済上ニ於テも軍事上ニ於テも、
其ノ重要ナルことは寧ろ吉長鉄道ニ較ク
もの多シ。是レ亦迅速ニ著キタルを要ス
。間島問題ノ交渉未決ニ在リ今日。独

リハ鉄道問題のみを進行せしむることハ
、事情如ク困難ナル可シト雖も、余ノ
見ル所ニ於テ是レハ。以テ鉄道を敷設スル
ハ、間島ニ對スル韓国ノ領土権を確定ス
ルよりモ遙カニ重要ナルものナリ。宜
シク事ノ輕重を考較シ、適當ニ交渉を進
行スルの午飯を取リ可キナリ
第三、旅順口の一部を開放シテ商港と爲



才の議は、曩に南滿鉄道の當局者よりも
 稟請せしことあり。大連灣を改修して安
 全たる港口とすにば、け上尙巨額の費
 用を投せざる可からず、即ち防波堤の
 完成するに至る時は、則ち海水氷結の虞
 を加ふるすとの謂へば、旅順口を以て之に
 代ふる可適當の處置なりと信ず。我が國
 は海上よりの攻撃に對して、關東半島を固

守す可き地位に在りしが、故に旅順を
 以て單純たる軍港と爲すの必要は始のよ
 り之小坂のみにならず、將來馬山浦の設
 備完成するに至れば、軍港としての旅順
 は益す其の必要を減すべしなり。且つ中
 く所に掘水は露田も曾て旅順の一部を改
 造して大なる高港となす。以て大連に代
 へんと計劃し居たりし方々。余は時に及



人び連かゝるを法行するの得策たるを

かゝるなり

第四。南滿洲に於ける各種の鉱山に手を

著くは。即ち左地に於ける我が利権を

増加し。且つ強固にす。所以として。尙

局者か現に其の手段を取り居るは。以

己に熟考する所なり。余は其の概念

を利用するに於て。更に遺憾あるからんこ

とを希望するなり

第五。邦人も奨励して多く滿洲に移住せ

しむるは。前必記五項中に於て最も重要なる

事件にして。造営物に於ての経営が

如何に進行するとも。苟くも在滿洲の邦

人に於て。其数僅かに其の事業大なるを

了らば。我が利権は決して永遠確實

あり基礎の上を以てし。謂ふ可からざる



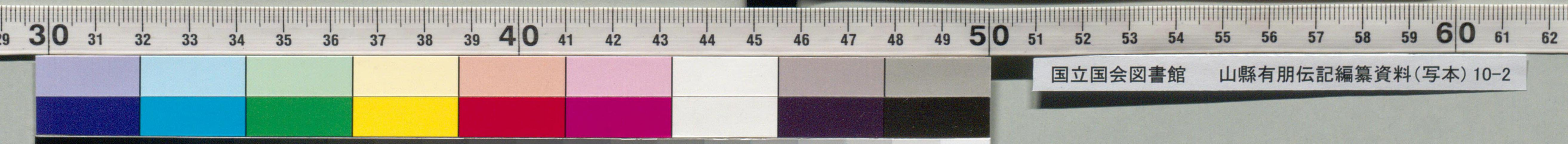
たり。然るに戦後已に数十年を経過せるの
 今曰。邦人の満洲に移住せるもの尙未だ
 多かりき。従て其事業の多く起りたりは
 實に痛嘆の多かりに堪へず。財政
 の餘裕なきこと今日の如くはなほに於て。
 國家が支分に移住奨励費を支ふこと能は
 ざらば。論何れも。若し今日の如くに
 して空しく歲月を経過せば、南滿鐵道の

沿線に於て幾多の日本人市街村落を現出
 せし事は。殆んど期待す可からざるもの
 にかゝるす。當局者は曩に北米渡航の
 邦人を減少して以て、滿韓の移住者を増
 加し。一方に於て米國との交渉を避けし
 と共に、他の一方に於て滿洲に於ける林
 業の勢力の扶植。利権の確立を計るに決し
 。外務大臣自らの議案に於ては方針を端



述したる事あり。亦来々計画の實行に
 考へて考慮を運らし居らるゝは。余の確信
 する所なり。歲月は人を待たず余は
 實行の一日も遅らざらんことを切望す。
 即して人民を移植するに就きて金融の様
 態も設く了の必要ありは言を欲せず。日
 下満洲に於ける金融様態は甚だ不十分
 して。現在の需要にも応ずるに足らざる

やに聞く。或人も今後多数の人民が移住
 するに於ては、是れ亦宜しく其の進歩
 改良を圖るべしなり。
 以上五項の中心は之れが實行を計るに
 する。條約上清國政府の同意を得たる所
 あり。然し而して清國は三十
 七年甲午以後俄かに其の態度を一変し、實
 力の増大に伴はざるにも拘らず、頻りに



山縣有朋伝記編纂資料(写本) 10-2

独行自立の腹心して。所謂の利権の回収
を以て計り。其の我に對する強くとす
毫の好意友情あることなく。衆多の懸案
は久しきを經て依然解決の緒に就かざる
のみならず。甚なりは一切
の交渉事件を以て。海牙仲裁裁判に付せ
んとす。この提議を爲し來るが如き。其の
事理を弁せざる。殆んど言語に絶えたる

ものあり。從て滿洲に於ける我が利権を
増加し。及以て強固にするの事件に付きて
。彼れを以て速かに我が提案に同意せし
あることは。極めて困難の事業なりと雖
。い。滿洲の経営が一日も忽に可うさ
ること。已に明白疑ひなきに於て。我が
同は如何にして。迅速に之を進行す
るの手段方法を講せざる可からざるあり

山縣有朋伝記編纂資料(写本) 10-2

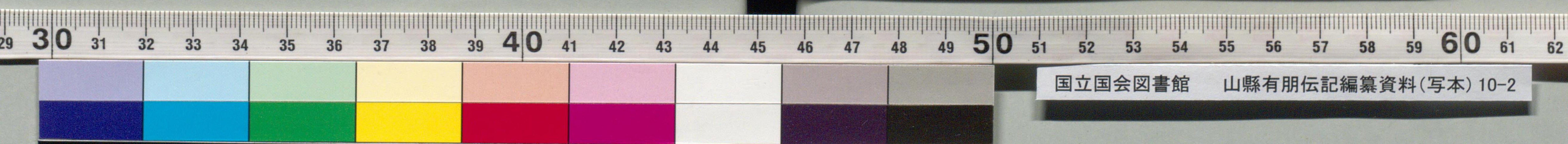


山縣有朋伝記編纂資料(写本) 10-2

抑も三十七八年の戦争は。露國が韓國に
施ける我が利権を侵害するの虞を以て
て。之れを驅逐し以て韓國を經營するの
實権を得んとするもの。即ち其の主たる
目的なりしや言ふに難し。清國
の爲めに祖宗祭祀の地を保安し。併せて
之れを以て露國の壓迫を免れしむるも

の。亦其の目的の一なりしは。清國に施
て。國より親おし居る所にして。清國に
了。もの宜しく我が情誼に對し感謝すべ
答はるに。今日は今全く之れを反對の態度
にあり。前述の如く我に向て寸毫の好意
友情を表せず。却て事毎に抗爭衝突を爲
し來るの風を以ては。誠に倨傲不遜を極
るものなり。固より我れに永久に忍容し

山縣有朋伝記編纂資料(写本) 10-2



山縣有朋傳記編纂資料(写本) 10-2

得へる所は、此の如き事あり。故に我は、
清國に向つて、三十七年、戦役に出
我が義侠の本意を説き、
利権回収の言ひ可く、
このことを懇切に解諭し、
彼れを以て我れ
に信頼するの必要且つ正當あること
を悟せしむるに、
其の能く改めざ

るに於ては、
力を用いて、
然るに、
りては、
此れを以て、
干渉せしむることを計
し、
可き事なり。我れは、
威壓するに、
左盟國たる英國を除く
の

山縣有朋傳記編纂資料(写本) 10-2



外に於ての外國を敵視するに於ては、決して危険な事と云ふ可からず。況んや列國が悉く敵とならんとするの今日に於ては、や。一の英國左盟不果して特之次で、大接となす可也。否やも、亦未だ測り知る可からざるものあるに於ては、今や列國は皆清國に於て經濟上の利権を獲得し及心確立せしむる事に熱心し。其の活動の劇

烈ある程と名状す可からざるものあり。然り而しては、其の諸國は孰れも我の國と今一く、清國の領土保全を相互に恨つし居るに於ては、清國は表面領土の保全を保證せらるゝの觀あり。従て列國の利害が互に相衝突するを奇貨として、其の間には、術策を弄するの餘地あるか如きも。蓋も清國永遠の利益とは為ら



目的を達すことを得るやも。亦未だ知

る可からざるあり

故に武力を以て清國を威嚇するは。即ち

最後の手段にして。目下の策として。は宜

しく。日露の協約を利用し。露國と協議

議の上。相提携し以て清國を以て。支讓

を根せしむること。を計る可きなり。抑も

北滿洲及び西伯利亞に於ける露國の經營が

進行するは。我々の利益に於るが。而して

南滿洲及び韓半島に於ける我々の經營が

進行するは。則ち亦露國の利益に於るが。

斯くの如くにして兩國の利害は。正に相

反對するものなり。雖も。而かも清國

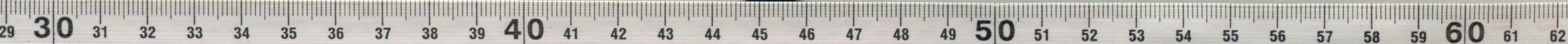
の利権回収熱に對するは。是れ。双方

の利害正に相背するものあり。是れ。余等

の曾て日露協約を希望したる所以。即ち

又帝國政府が之を執行したる所以に
て。露國が協商を希望したる所以も、
恐らく是に在る可し。別ち滿洲の經營に
つては。日露の兩國其の利害の共通せ
る點に於て。露議を通じ。双方の協力と
合用して以て。清國を以て其の要務に
從せしむること。今日の第一要義に
。而して又列國の離間中傷を杜塞するの

最上手段なりと信ず
清國は兩宮の崩御に次ぎて。表世凱の免
點以來。政治の中心何れに在りや
確知し難き状況ありと雖も。今後十年
以内。憲法を發布し。議會を召集するの
方針に於ては。罕乎とて動加さるも
の如く。之が準備の政治機關たる
議局は。已に本年内に各省に開設せし



山縣有朋伝記編纂資料(写本) 10-2

とす。諮議局の開設が清國の政治を改善し。財政を整理するに有効なる可き也。得た益は國家の不統一を增長し。中央の権力を削弱せしめて。或は禍乱續出の原因となり可き也。何人も之を豫言する能はず。識者の意見も亦区々たり。雖も大原因となり可し。豫想せらるる所の

西大后の崩御が。竟に何等の事變をも發生するに至らず。革命黨と雖も毫も乘す可きの採合を得たりしに於て考ふれば。清國に於ける中央政府の権力は。未だは。清國に於ける想像せらるる如く。其の開設は意外の好結果を呈し。竟に憲政の奔達を促るに至る也。亦未知る可

山縣有朋伝記編纂資料(写本) 10-2



山縣公史實調査會月誌

かゝるさるが、果して是に至らば其の突
力以て息も角も。其の利権回収熱は益々猛
烈となるべく。其の影響する所大に戒心
すべしものなり。其の可からず。交渉は
果して然らば我が満洲の経営は最も急
速に之を執行せざる可からず。交渉は
復に時日を消糜し。廢して租借期限の満
了を待つに至るか如きは、決して思ふ可

かゝるさるの事にして。外交上云々する手
段を盡して。尚目的を達する能はせざれば
於ては。宜しく所謂の最後の手段を用ゐ
て。北京政府を以て我が命是れ聽かしむ
るの外なきなり。此決心を執行するに
まづは。豫し十分の列國と意思を
し。其の干渉を免かすの手段を講ずる
の必要あるは勿論なり。列國に對し

山縣公史實調査會月誌



山縣有朋伝記編纂資料(写本) 10-2

乙 意思の疎通を計るに際しても、最後の
覚悟は、一日も之れを遺忘するを容さず
。 此覚悟を実行するに、ついでには、
今日より百般の準備上、胸膈成竹ある一
さる可なり
。 之れを要するに満洲の経営進行せす。
我
が利権確立せず、我が立脚の地盤強固
ありしを、空しく歲月を経過するに於て

は、關東半島は勿論南滿鉄道と雖も
其の極之れを維持する能はざるに至る
。 之を保せず。若し不幸にして斯くの如
形勢を馴致するにあらん乎。其の事の
韓半島に影響する極め、重且つ大なる
のあり。我が祖先は、往古三韓を附庸とし
て、之れを統治保護すること、数百年、
之れを抛棄せざる能はざるにありたり

山縣有朋伝記編纂資料(写本) 10-2



山縣有朋傳記編纂資料(写本) 10-2

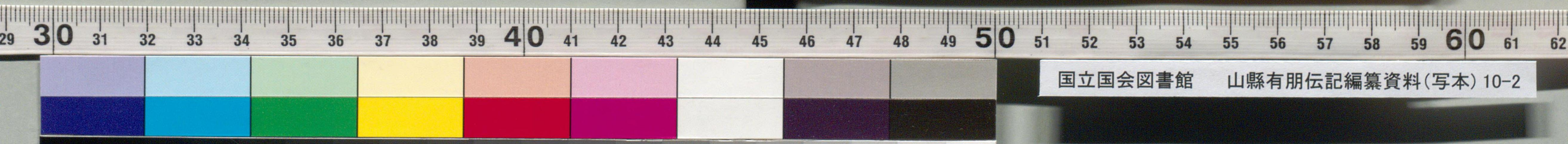
は。國史を讀むもの、千古の浩歎に堪へ
ざる所なり。然るに今も僅に之れを保護
圖とし、たりのみならず、未だ純然たる附庸
と化し、能はざる中に、再い之れを抛棄せ
ざるを得ざるか。如きことあるは、独り前
古を顧み、後世に對して大に恥づるのみ
ならず、復た何の面目ありて、西度の戰
役、陣歿せらるる勇將烈士の英魂を、地下

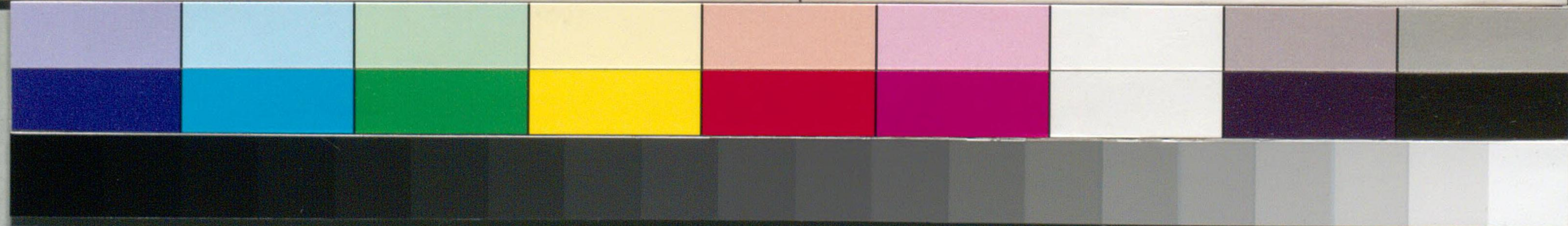
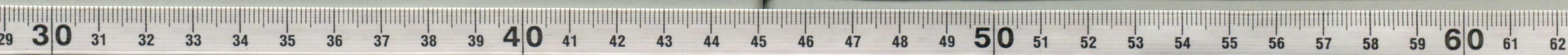
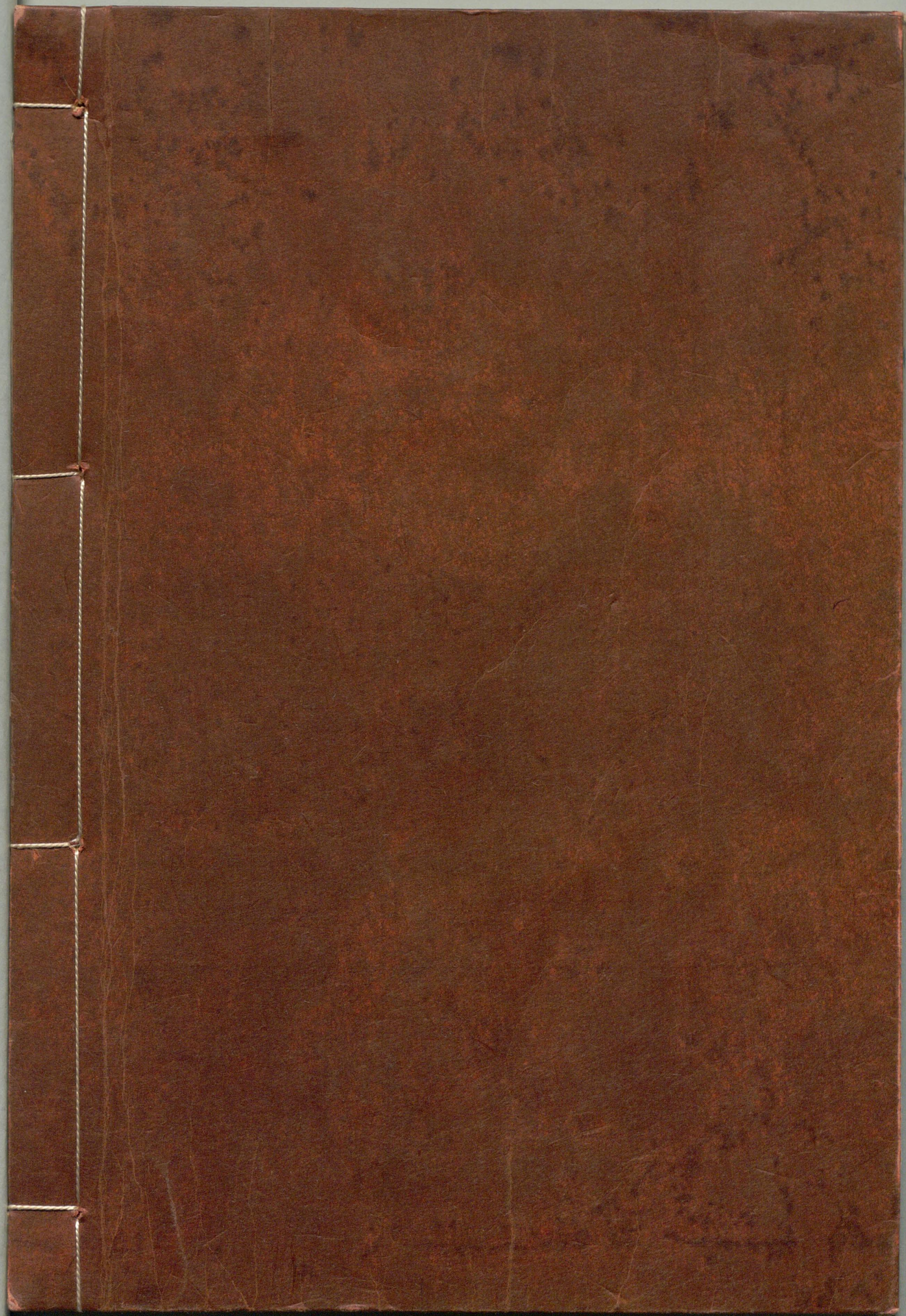
に見ざるを得んや。是れ余の常に深憂を抱
く所以にして、又敢て此卑見を仰ぐ所
以なり。諸君幸に之れを諒せよ

明治四十二年四月二十九日

有朋

山縣有朋傳記編纂資料(写本) 10-2





国立国会図書館 山縣有朋伝記編纂資料(写本) 10-2